

多くの人たちにとって大きな問題である家賃の支援を行っています。とはいえ、数百人、数千人の規模で支援をすることは難しく、最も貧困層が多いと思われる地域を中心に一軒一軒のお宅を訪問し、彼らの状況を聞きながら支援を続けています。

どの家の人たちからも早くシリアに戻りたい、この国は物価が高すぎていられないと言われます。「いつまで」と決まっていれば多少の苦難も乗り越えられるかもしれませんが、終わりが見えない中、その一方で一生この地で暮らすとも考えられない「難民」の苦しさを感じています。既に2年以上が経ち、若干の生活の基盤を得たシリア人はまだ良いのですが、難民生活が長引く程、一家の主を失った未亡人家庭等、いわゆる弱者と言われる人たちに負担がのしかかっています。サダーカでは、これまで比較的新しく来たシリア人に焦点を絞った支援を行ってきましたが、今後はこうした弱者を中心にいくつかの家庭を選定し、支援を続けていければとも考えています。また、NPO法人JIM-NETと共にやってきている絆ぐるぐるプロジェクトについても継続して行っており、お宅訪問の際に必要としている方々へ下着やジャージ等を配っています。

サダーカでは、未だ具体的な支援には至っていないものの、様々な理由で怪我をした人たちのリハビリテーションや職業訓練、仕事の機会の提供等を行うシリア人で作る団体とかかわりを持ち始めました。この事業を進めるシリア人達は、戦闘に加わって負傷した一般の若者たちが完治後シリアに戻って再度戦闘に参加しないよう、彼らのヨルダンでの居場所づくりを作りたいという思いがあります。更に、夏休みを迎え戦争で過酷な環境を生き抜いてきた子供たちの居場所づくりも課題となっており、国際的組織等の手の届かないところで地道に活動する現地の団体等への支援も検討しています。緊急度の高い家賃や食料等生きていくための支援は続けていくと共に、こうした紛争が生み出す難民の現実にも向き合い、何らかの形で支援ができればと考えています。

この3月からはサダーカにも関わってくれている元シリア青年海外協力隊の皆さんが、JICAのボランティアとしてザアタリキャンプ、そしてヨルダンの北の都市マフラク、首都アンマンでシリア人の子どもたちと活動を続けており、彼らの発信もフォローして多くの人にシリアの人たちの声を伝えられればと思っています。

最近の問い合わせに、サダーカはシリア国内の支援は行わないのか？というものがありますが、現在は、シリア国内で動くことができる団体はとても少なく、特にヨルダン国境からの支援は治安上とても難しい状況です。国連機関といくつかのNGOのみしかシリア国内で動けない中、我々の支援を届ける手段が極めて限られているのが事実です。また、友人等に聞くと、個人的に支援活動を目立った形で行うことは、厳しく取り締まりをされており、実際逮捕者も出ていると言います。ある程度政府公認のチャリティ団体を通せば一定地域には支援は届くとは聞いていますが、実際の状況を確認することが難しいため、皆さんに頂いた支援金をどのように使われたかを確実に見届けることができないところには送りにくいのが現状です。

サダーカではシリア難民支援を行う団体と情報の共有や協同でのアドボカシー活動を行っています。そのような団体の一つで、今回は公益社団法人 日本国際民間協会 (NICCO) のシリア紛争人道支援事業をご紹介します。

(2) 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO) シリア紛争人道支援事業活動レポート

報告：NICCO ヨルダン事務所長 ^{たくい} 工位 夏子

NICCO は2012年11月より、ジャパン・プラットフォームの助成を受け、シリア難民への支援活動をヨルダンにおいて開始しました。活動開始当初は冬の到来が迫っていたため、暖房器具・灯油・ジャケット・毛布などを配布しました。気温の上昇とともに防寒具へのニーズはなくなり、今は灼熱の夏が近づきつつあります。難民キャンプからヨルダン人コミュニティに生活の場を移したシリア難民は、27万人以上と推定されます（UNHCRによる）。今年は7-8月がラマダンとなるため、その期間中のシリア難民の生活はより一層過酷なものになると言われています。



世界難民の日に子どもたちが作ったバナー

NICCO は物資配布を継続しつつ、内戦によって心に傷を負った方への心理社会的ケアおよび精神保健支援を2013年の春より開始しました。本稿ではその内容を紹介させていただきます。現在NICCOはヨルダン中部のザルカ県ザルカ市に支援センターを設置し、子どもと女性を対象とした心理社会的ケアワークショップと、精神保健の専門家によるカウンセリングを提供しています。子ども向けワークショップでは、描画・粘土細工・音楽・演劇等を通して、子どもたちが心の奥にしまいこんでいる戦争体験と向き合い、乗り越えていくサポートをしています。ある参加者は、自分の殻に閉じこもって周囲を拒絶しているように見えてましたが、スタッフや他の参加者との交流やセッションを通して、徐々に周囲に対して心を開き、自身を表現できるようになりました。また、ワークショップの一環で、子どもたちに将来の夢について質問したところ、みな目を輝かせて夢を教えてくれました。シリアでは、医者やエンジニアが子どもたちの憧れの職業のようです。



演劇発表会で堂々たる演技を披露するシリア難民の子どもたち



将来の夢は「(無料で人を乗せてあげられる)タクシーのドライバー」と語る男の子

より専門的なサポートが必要な方に対しては、ソーシャルワーカー、心理士、精神科医によるカウンセリングを提供しています。家族などの近い人を殺害されたり、想像を絶する惨状を目の当たりにしてしまい、不眠・頭痛・悪夢・PTSDなどの症状があらわれている、もしくはその兆候のある方が大勢いらっしゃいます。中には日常生活に支障をきたすほどの深刻なケースも存在しています。このような方々が、早く元の生活を取り戻すことができるよう、メンタルヘルスサポートを続けていきます。

シリア難民や地元のヨルダン人と接する中で、人間の尊厳とは何か、人として一番大切なことは何なのか、日々考えさせられます。常に謙虚な気持ちで、今われわれにできることを精一杯やりたいと思います。

シリア難民や地元のヨルダン人と接する中で、人間の尊厳とは何か、人として一番大切なことは何なのか、日々考えさせられます。常に謙虚な気持ちで、今われわれにできることを精一杯やりたいと思います。

(3) 寄付の状況

本年度より、四半期ごとにご協力いただいた寄付のご報告をさせていただくことになりました。2013年4月～6月まで、21万8500円のご寄付をいただきました。ご協力をいただき、誠にありがとうございます。いただいたご寄付は、引き続き、上記代表からありますように東アンマンを中心とした支援に使用させていただきます。

2. アハバールフロムニッポン <日本での活動の報告>

(1) Stop Killing in Syria キャンペーン

サダーカは3月末から、Stop Killing in Syria キャンペーンをはじめました。このキャンペーンは、シリア人たちの声、紛争前のシリア、そして今の難民の様子を伝えることを目的としたものです。私たちは、①あらゆるグループによるあらゆる形態の暴力を否定し、平和的解決を、そして、②外国からの暴力・武器の撤退を求めます。“Stop Killing in Syria” というメッセージを手を持った写真を集め、ポスターを作成することで世論から国際社会にメッセージを発信していきたいと考えています。また本キャンペーンに関連して、サダーカのウェブサイト上に、シリア難民の声やシリアの実情をまとめた動画を掲載しています。シリアの平和を考えるひとつのきっかけになってくださればと思います。1分半ほどの短いものになっていますので、ぜひご覧ください。

(2) 4月の活動の報告

4月は2つのイベントにサダーカも参加しました。多くの方にシリアのこと、サダーカのことを知っていただくいい機会になりました。ご来場いただいた皆さま、どうもありがとうございました。

▽4月20日、21日アースデイ2013(東京・代々木公園)
サダーカでは株式会社アレppo石鹸様のブースをお借りして、シリアの状況、サダーカの団体紹介、チャリティー販売、そしてStop Killing 活動の呼びかけを行いました。売り上げ及びご寄付にていただいた194,500円は、出展代を除き、全額現地での支援に使用させていただきます。



<http://www.sadaqasyria.jp/news.html#20130418>

▽4月20日、21日第6回協力隊まつり(東京・TIC TOKYO)

本イベントでは、ヨルダンにおけるシリア人難民家庭への訪問記や世界同時アクションのポスターの展示をはじめ、アレppo石鹸及びかサブ石鹸、ポストカード等の物販販売も行いました。雨の中、多くの人にご来場頂きまして、ありがとうございました。売り上げ及びご寄付にていただいた52,050円は全額現地での支援に使用させていただきます。

(3) メディア掲載のお知らせ

前号のメールマガジン発行以降、以下のメディアでサダーカが紹介されました。ぜひご一読ください。

▽4月26日タウンニュース(神奈川県全域・東京都町田市)

<http://www.townnews.co.jp/0110/2013/04/18/184398.html>

▽5月17日朝日新聞

<http://www.sadaqasyria.jp/news.html#20130517>

▽開発メディア ganas

http://dev-media.blogspot.jp/2013/05/blog-post_23.html

